



葛城修験
里人とともに
守り伝える
修験道
はじまりの地

シリーズ パーソナル山行 日本遺産 「葛城二十八宿」 を巡る

修験道の開祖と言われる役行者は、葛城の峰を仏法の世界に見立てて法華経八卷二十八品をそれぞれ経筒に入れ、加太・友ヶ島から大和川・亀の瀬までに埋納し、経塚として葛城修験の中心となる聖地としました。

これら行所への道とリンクする葛城の尾根道は、和泉山脈の近畿自然歩道やダイヤモンドトレールとして整備され、美しい自然と触れあうことを求める多くのハイカーたちにも歩き継がれています。今回は、これら修験道をシリーズとして、春から冬にかけ数回に分けて巡るパーソナル初の試みです。

役行者とは 葛城修験を開いた人物で、修験道の開祖と言われる役行者は本名を役小角（えんのおづぬ）といい、舒明天皇6年（634）に大和国葛城上郡茅原郷（現在の奈良県御所市）に生まれ、7～8世紀にかけて実在した人物とされています。前鬼と後鬼という二つの鬼を弟子として自在に操り、不思議な力を駆使して、空や野山を駆け巡ったといった逸話も残っています。

役行者が葛城修験を開いた後に移った修行の地が大峯山であり、世界遺産にも登録されている霊場「吉野・大峯」は、修験者にとって葛城修験とともに最も重要な行場とされています。

（葛城修験日本遺産活用推進協議会HPより <https://katsuragisyugen-nihonisan.com/about/>）